

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3 年 5月 10日

事業所名 こどもデイサービスenishi(児童発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%	その日の活動や利用者によって配置を変えている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基本1対1で対応している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%	利用者のマークを作り、靴の置き場所やかばんの置き場所に表示している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	部屋やおもちゃの消毒を徹底している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	67%	33%	月1回会議をし、利用者の振り返りをして業務改善に努めている。	職員全員参加しているが、知識のばらつきがあるため理解を確認しながら行う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%	実際の声をつねに反映している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	33%	67%		初めての評価であるため、結果をもとに業務改善していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	67%	外部評価は受けていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%	職員の知識に合わせて勉強会をしている。	定期的に勉強会ができていないので、定期的に行う。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	83%	17%		スタッフ間での共有ができていないため、共有できるものを作り意見を取り入れていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0%	100%		アセスメントツールがないため今後作成していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	具体的な支援を記載している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	毎日振り返りをしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	1月毎に活動を立案する。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	カレンダーに予定を記入し、同じものが続かないようにしている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	50%	50%		個別活動が確立できていないため、スタッフ間で活動内容を考えて確立できるようにしていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝ミーティングの時間に話し合いをしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	その日に解決しないといけないことはその日に振り返りを行い、次の日の朝のミーティングで振り返りをしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	個別の用紙に、活動評価を記録し、次回の活動内容に反映させている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%	スタッフ間で振り返りをしてからモニタリングを行っている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	管理者が参加している。	保育士も参加できるように情報共有していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	市役所の子育て支援課と連携し、地域への支援も行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	67%	33%		地域での会議が少ないため、情報が少ないので、積極的に地域との連携を図っていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	医療的ケア実施には医師の指示書をお願いし、連携をとっている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33%	67%		親を通しての情報になっているため、地域との連携を図っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33%	67%		情報が少ないので、積極的に地域との連携をとり情報収集していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%		研修情報を取り入れ、積極的に参加する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%		コロナの影響で外部との交流ができなかったので落ち着けば外部との交流をしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%		情報を取り入れ、積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時に聞き取り、問題解決している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	40%	60%	体調面や栄養面など相談があるときは助言している。	家族支援プログラムについて情報収集する。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に丁寧な説明をしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83%	17%	計画立案時は、説明を行いサインを頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%	送迎時や連絡帳で報告や相談を受けて助言している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%	クリスマス会に保護者を招待し、保護者同士会話できるように工夫した。	保護者同士で情報交換できるように定期的な保護者会を開催していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	連絡帳に記載してもらったり、送迎時に聞き取りをして迅速に対応するように心掛けている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月1回新聞を発行し活動報告や情報を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	契約時に同意書をもらっている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	子どもの思いを尊重し、家族と寄り添う支援を心掛けている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	83%	地域との交流をもった事業は行っていない。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	マニュアルは作成している。	マニュアルを活用できていない現状があるため、会議などで活用していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	67%	33%	年に1回行っている。	年4回の定期的な訓練ができるように業務改善をしていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	個別のフローチャートを作成し、対応を周知している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師の指示書のもと対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	会議で報告をしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	17%	83%		研修情報を取り入れ積極的に参加し、報告会を兼ねて内部研修を行う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載して	20%	80%	身体拘束が必要な児には、支援計画に記載している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年5月10日

事業所名 こどもデイサービスenishi

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	50%	ベッドが必要だが、スペースがないが安全に配慮して簡易ベッドなどを活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	玄関に段差があるが、スロープを活用している。	身障トイレになっているが、介助が必要な児には座位を保つことが難しいので、安全に座れるように介助し工夫する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	50%	50%	毎月の会議では振り返りを行っているが、看護師中心となり指導しながら目標に向けての取り組みを考えている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%		今回初めてのアンケート実施なので、意見を取り入れて今後の支援に反映していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	67%	33%		今回初めてのアンケート実施なので、意見を取り入れて今後の支援に反映していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	67%	現在は受けていない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%		定期的に勉強会ができていないので、定期的に行う。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	相談支援員とも連携をとり、支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	17%	83%		スタッフ間での共有ができていないため、共有できるものを作り意見を取り入れていく。アセスメントツールがないため、作成していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	児童発達支援の活動を元に、活動できるよう工夫してプログラムを考えている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%	児童発達支援の活動を元に考え、カレンダーに記入し同じ活動が続かないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%	利用児に合わせて活動を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	その日の体調などに合わせて個別活動や集団活動をしておりその内容は計画に反映させている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%		役割分担ができておらず職員の支援にばらつきがあるため、職員の知識を確認しながら役割分担をしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%	大事なことはその日のうちに振り返っている。	反省が多いため、職員の知識を確認してできていることを伝え、利用児に良い支援ができるように振り返りを行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%		記録をとることはできているが、支援の改善には至っていないので職員の知識を確認し指導していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	6か月ごとに支援の見直しをしている。	医療的ケアが多く保育士への周知ができていないので、わかりやすい説明を行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	50%	50%	ガイドラインに沿って支援している。	職員の知識のばらつきがあるため、ガイドラインを周知できるよう指導する。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が出席している。	児童に応じて、保育士の参加を促していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	83%	17%	送迎時には担当の先生と確認をしている。	ほとんど保護者からの連絡が多く、抜ける事もあるため学校との連携を密に行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	医療的ケア実施には医師の指示書をお願いし、連携をとっている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%		このような事例がないため、今後情報共有していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	80%		相談支援員より情報がなかったため、情報共有の方法が分かりにくい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		連携できておらず、研修の参加できていないので情報収集をして積極的に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	現在は行っていない。	保護者からの要望があれば検討するが、感染予防やケガの観点から慎重に検討する。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	参加していない。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%	連絡帳や送迎時にその日の様子を伝え、自宅での様子も伺っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	体調面については助言しできている。	知識や経験が少ないため、家族支援プログラムについて情報収集する。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	連絡帳や送迎時に聞き取りをして助言している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	67%	33%	児童発達支援を中心にイベントを開催していたため保護者同士の連携を支援できていない。	児童発達支援の保護者より将来の不安を聞かれることがあるので、保護者同士の交流会ができるように今後考えていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	迅速に対応している。	日頃から保護者と共有し、話しやすいように心がける。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83%	17%	月1回の新聞発行、インスタグラムで発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約時に同意書をもっている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	子どもの思いを尊重し、家族に寄り添う支援を心掛けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	地域との交流をもった事業は行っていない。	